

# 特集 ICTは、林業のサプライチェーン・

# マネジメントをどう変えるか

最近スマート林業というICT※1を駆使した林業像が提案され、眼にする機会が増えました。その具体像を讀者自ら検討する機会も出てくるでしょう。

そこで本誌では、そうした議論の材料を整理、提供してまいります。

本特集では、議論の出発点を現場に求めました。「平成28年版森林・林業白書」で紹介された北信州森林組合（長野県）※2です。

同組合をお二人の先生が訪ね、同森林組合の幹部職員と意見交換を行い、その内容を踏まえて本特集を構成いたします。

訪ねていただいたのは、林業生産のサプライチェーン・マネジメント(SCM)※3理論及び実践論の体系化を進めておられる酒井秀夫教授（東京大学大学院）、及び本誌連載でおなじみのロジスティクス専門家の椎野 潤先生（本誌「椎野先生の『林業ロジスティクス』ゼミ」）です。

本特集では、林業サプライチェーンを描き、そのマネジメントを機能させることは、林業にどのような成長をもたらしてくれるのか、を考察した上で、

- ・ サプライチェーン・マネジメントを実行するツールとしてICTが欠かせないこと、
  - ・ ICTでサプライチェーン・マネジメントの何ができるのか、
  - ・ そもそも林業のサプライチェーンとはどのように描くのか、
- について整理します。

※1 ICT：情報通信技術。従来のIT（information technology）に通信技術（communication）を含めた総称。海外では、ITよりICTのほうが一般的と言われる。

※2 北信州森林組合での意見交換を踏まえた論点については、本号「椎野先生の『林業ロジスティクス』ゼミ」を併せてお読み下さい。

※3 サプライチェーン・マネジメント（SCM）

**特集1 透明情報共有とICTで可能—生産リードタイム削減、在庫圧縮で高利益を生む現場に**  
編集部

**特集2 林業サプライチェーンモデルの描き方とITの役割**  
酒井秀夫（東京大学大学院教授）



写真左より、田中忠・北信州森林組合総務課長、酒井秀夫教授（東京大学大学院）、椎野潤先生、堀澤正彦業務課長

## 事例1-4 ICTを活用した生産管理手法の導入

長野県の北信州森林組合では、産業界集約化のために取り組んだ境界明確化や森林資源調査で得られたデータについてのデジタル管理を進めているとともに、原木の生産や流通についても、ICTを活用した生産管理手法を導入している。

画像情報等を用いて林内の山土場や中間土場に埋積された製材用材や合板用材の数量を把握する手法や、搬入等を行うトラックの規模等でチップ用材等の数量を把握する手法を導入することで、ICTを用いて出材量や出荷量といった情報をリアルタイムに森林組合の中で共有を進めている。また、作業日報や経費、出来高等の労務管理の把握についても、ICTにより効率化を図っている。このような取組を進めた結果、素材の迅速な取引が可能となった。



北信州森林組合の取り組み

資料：「ICTを活用した生産管理手法の導入」事例1-4、平成28年版森林・林業白書p26